



**YAMAHA  
CLASSIC  
ORGAN  
F-100**

取扱説明書

**YAMAHA**

## はじめに

このたびはクラシック オルガンF-100をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

F-100は、ヤマハの長年にわたる楽器づくりのノウハウと、最新の電子テクノロジーを結集して完成させたフルスケールモデルのクラシック オルガンです。

より一層向上したAWM(Advanced Wave Memory)音源による自然でリアルなサウンドを駆使して、多彩なパイプ オルガンの世界がお楽しみいただけます。

なお、十分にクラシック オルガンを使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は保証書とともに大切に保管して、わからないことや不都合が生じた場合に繰り返しご覧ください。

## 目次

各部の名称 .....	2
ペダル鍵盤の取り付け方 .....	3
運搬 / 移動について .....	3
各機器の接続について .....	4
1. 演奏までの準備 .....	5
2. 音色ストップ .....	6
3. 効果ストップ .....	7
4. ホール効果(リバーブ) .....	8
5. 便利なコンビネーション .....	8
6. デモソングの再生 .....	10
7. その他 .....	11
8. MIDIについて .....	12
MIDIインプリメンテーションチャート .....	13
故障だとお考えになる前に .....	14
仕様 .....	15

## 安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。お子様のご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

### 記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	<b>注意</b> 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	--

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。







⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

\* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。








## ⚠ 警告










この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

-  この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。  
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
-  浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。  
感電や火災、または故障の原因になります。
-  電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音がなくなったり異常におい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。  
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。
-  電源は必ず交流100Vを使用する。  
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。
-  手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。  
感電のおそれがあります。
-  電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。  
感電やショートのおそれがあります。



## ⚠ 注意

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

-  電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。  
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
-  電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。  
電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。
-  タコ足配線をしなない。  
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。
-  長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。  
感電、ショート、発火などの原因になります。
-  他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。  
感電または機器の損傷のおそれがあります。
-  直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。  
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。
-  テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。  
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

-  不安定な場所に置かない。  
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしったりする原因になります。
-  本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。  
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。
-  本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。  
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
-  本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。  
本体が破損したり、お客様がけがをしったりする原因になります。
-  キーカバーで指などをさはまないように注意する。また、キーカバーのすき間に手や指を入れない。  
お客様がけがをするおそれがあります。
-  キーカバーや鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。  
感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。
-  本体を壁につけない。  
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。壁から3cm以上離してください。
-  組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。  
手順通りに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしったりする原因になります。
-  大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。  
聴覚障害の原因になります。

### イスについて

-  イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。  
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
-  イスには二人以上ですわらない。  
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

\*この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

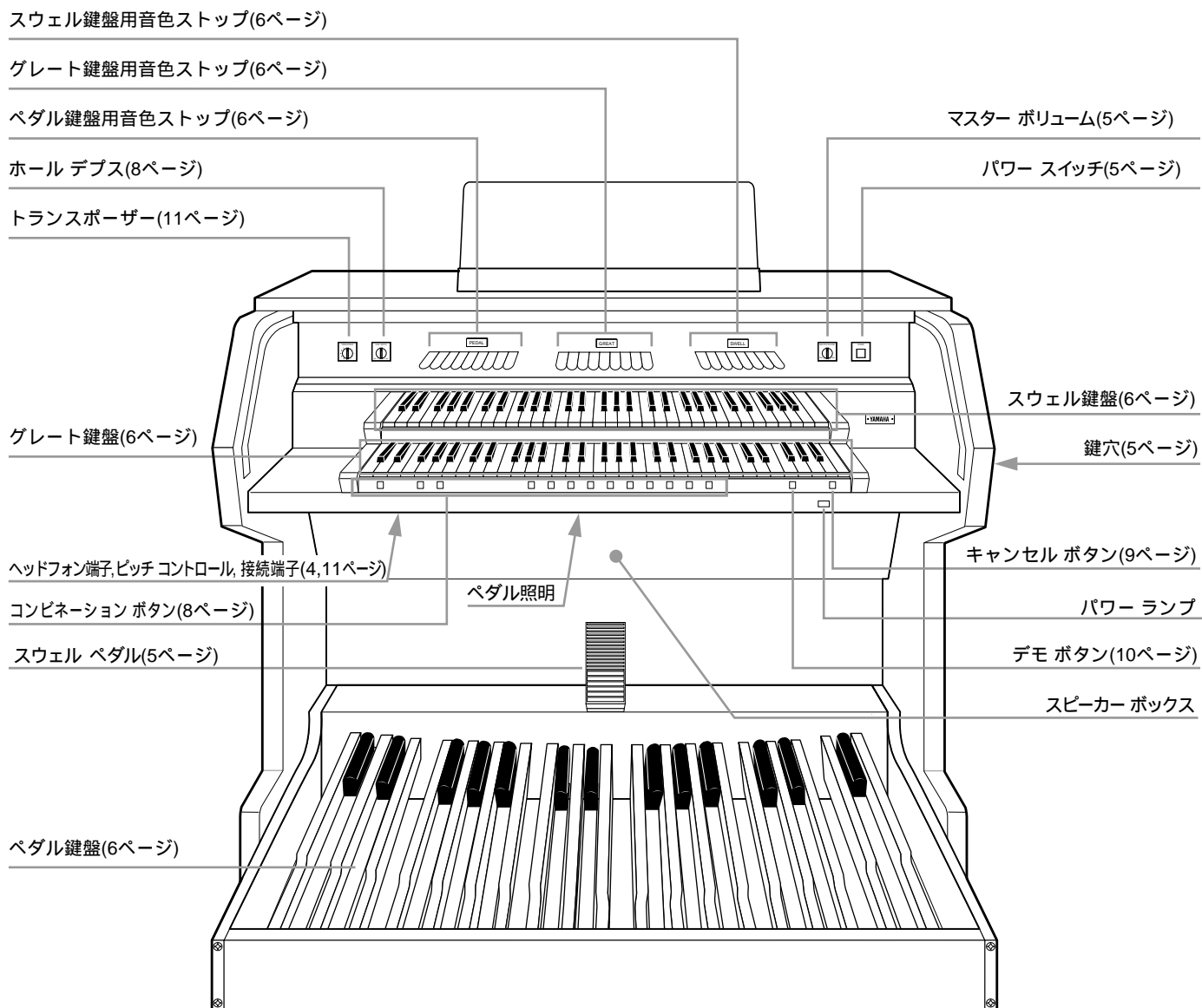


これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

### 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのほひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

# 各部の名称

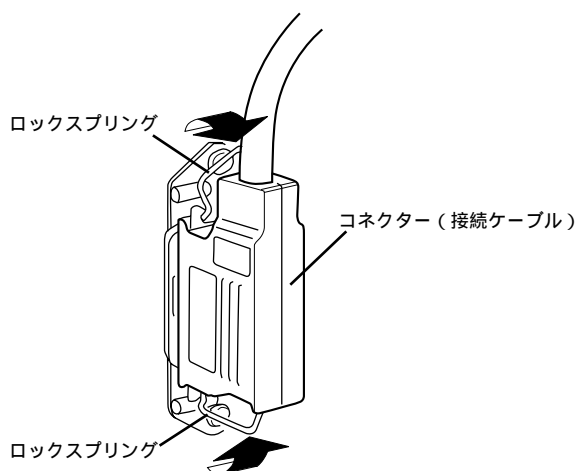
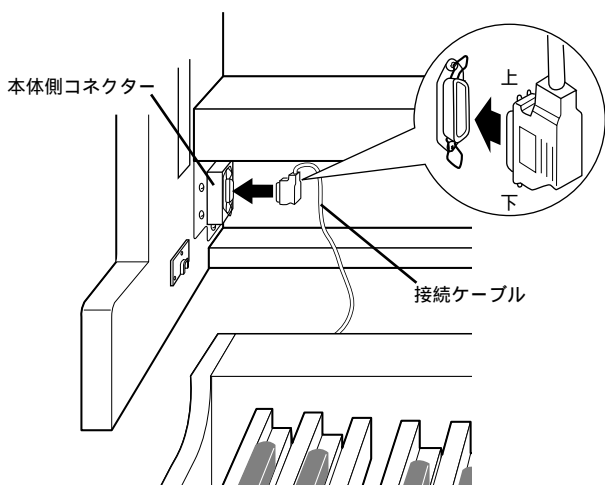


## ペダル鍵盤の取り付け方

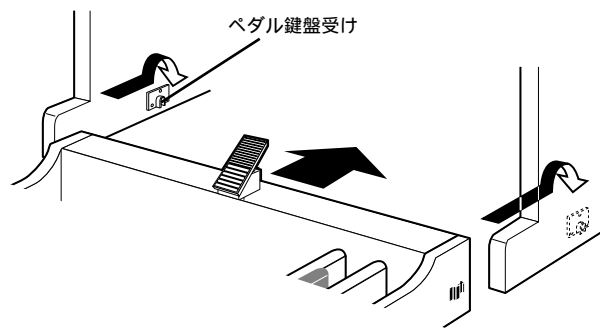
ペダル鍵盤は、簡単に取り付けたり、取り外したりできます。取り付け、取り外しの場合は、必ず二人で両側から持って、本体を傷つけないようにご注意ください。(ペダル鍵盤は大変重いので、作業時はけがをしないよう気をつけてください。)

ペダル鍵盤には平行型と扇型の2タイプがあります。この説明では平行型を使用していますが、扇型の取り付け方法も同じ要領で行ないます。

1. ペダル鍵盤の左側から出ている接続ケーブルのコネクターを、図のようにF-100本体左側のコネクターにしっかりと差し込みます。
2. 本体コネクター側のロックスプリングで、両側から接続ケーブルのコネクターを固定します。



3. 二人で両側からペダル鍵盤を持ち上げて、F-100のペダル鍵盤受けにペダル鍵盤をのせるようにして取り付けてください。  
接続ケーブルを本体とペダル鍵盤の間にはさまないようにご注意ください。



### ペダル鍵盤を取り外す場合

ペダル鍵盤の先端を最初少し持ち上げて、それから、手前に引き出してください。

## 運搬 / 移動について

F-100を移動する場合には、以下の点にご注意ください。

- 移動する前に、必ずペダル鍵盤を取り外してください。
- 電源コードはコンセントから抜き、他の機器との接続コードは取り外し、F-100の下に巻き込まないようにしてください。
- F-100背面の両側に取っ手用の穴があいていますので、移動時にお使いください。

## 各機器の接続について

F-100本体下部(鍵盤下)に各端子があります。

### 1 PHONES(ヘッドフォン端子)

ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを接続すると、スピーカーの音は自動的にカットされます。エレクトーン用のステレオヘッドフォン(HPE-170)をご使用ください。

### 2 AUX OUT L/R(出力端子; PHONE)

F-100の音声信号を外部機器にステレオ出力する端子です。

F-100は、音の出力のためにアンプ/スピーカーが内蔵されていますが、その他にこのAUX OUT端子を使って、外部のキーボードアンプから音を出すことができます。(下図参照)ヘッドフォンを接続した場合でもAUX OUTからは音声信号が出力されます。

### 3 AUX IN L/R(入力端子; RCA)

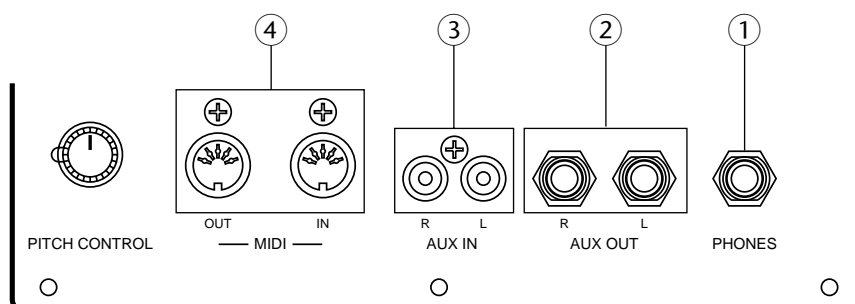
外部機器からの音声信号をステレオ入力する端子です。外部機器の音声をF-100の内蔵スピーカーから出力します。

### 4 MIDI IN/OUT(MIDI端子)

他のMIDI(Musical Instrument Digital Interface)規格の機器とデータのやり取りをしたり、F-100でその外部機器をコントロールする場合に使用します。

ヤマハミュージックディスクレコーダーMDR-4を接続して、F-100の演奏を録音したり、再生したりすることができます。(P12参照)

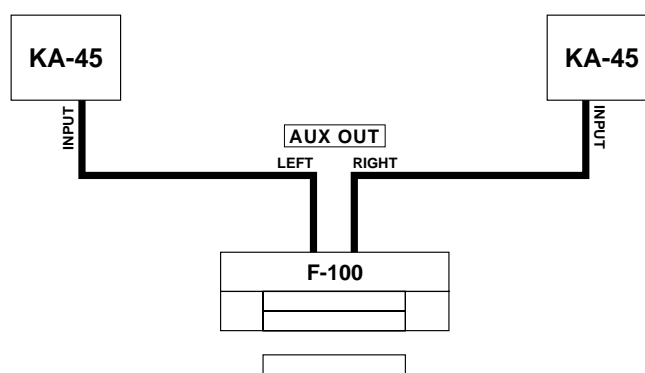
専用のMIDIケーブルが必要です。



### 外部のアンプ/スピーカーをご使用になる場合

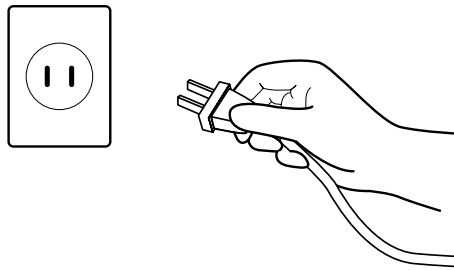
接続にはヤマハのキーボードアンプKA-45をおすすめします。

別売のPHONEケーブルを使って、図のように接続してください。



# 1. 演奏までの準備

1. 電源プラグは必ずAC100Vのコンセントに差し込みます。

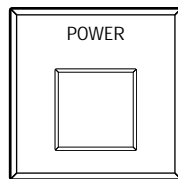


2. スライド蓋を押し上げます。

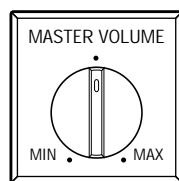
## Note

付属の鍵でスライド蓋をロックすることができます。鍵穴は右横についています。

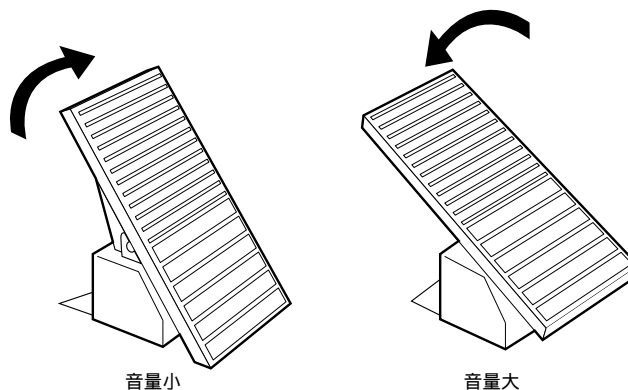
3. F-100のPOWER(パワー)スイッチを押してオンにします。



4. MASTER VOLUME(マスターボリューム)を設定します。マスターボリュームでは全体の音量を調節します。最初から音量を上げすぎないように注意してください。



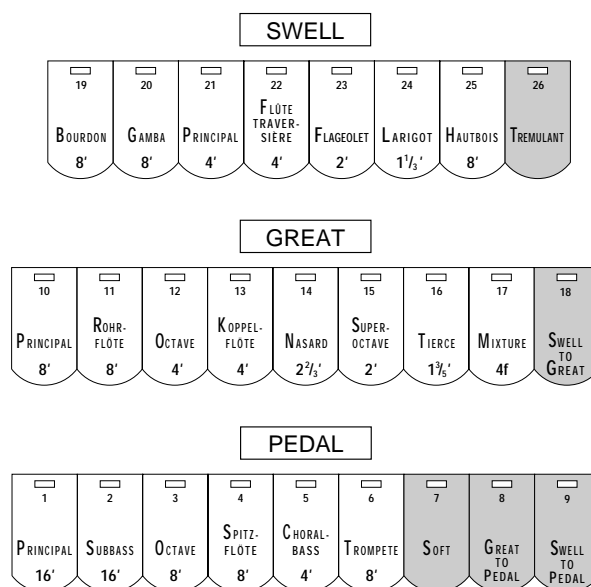
5. スウェルペダルで、スウェル鍵盤の音量を調節します。



# 2. 音色ストップ

PEDAL(ペダル) GREAT(グレート) SWELL(スウェル)の各鍵盤には、全部で21音色ストップの多彩な音色があります。音色には、いろいろなフィート(')のものがあります。音色ストップは、鍵盤ごとに自由に組み合わせて使用することができます。

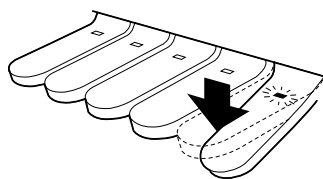
音色ストップは、ペロー式なので、演奏中でもオン/オフが簡単に行なえます。



## 音色ストップの操作

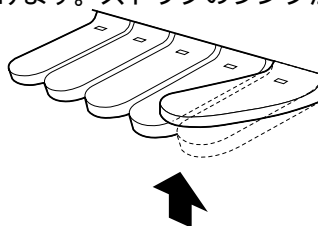
### オンにする場合

ストップの先を軽く押さえます。オンになると、ストップのランプが赤色に点灯します。



### オフにする場合

ストップの先を軽く持ち上げます。ストップのランプが消え、オフになったことを示します。



### Note

音色ストップの組み合わせは、「効果ストップ」の設定も含め、コンビネーションボタンにあらかじめ記録しておくことができます。また、記録したコンビネーションは、演奏中にボタンを押すだけで呼び出すことができます。(P8参照)

### Note

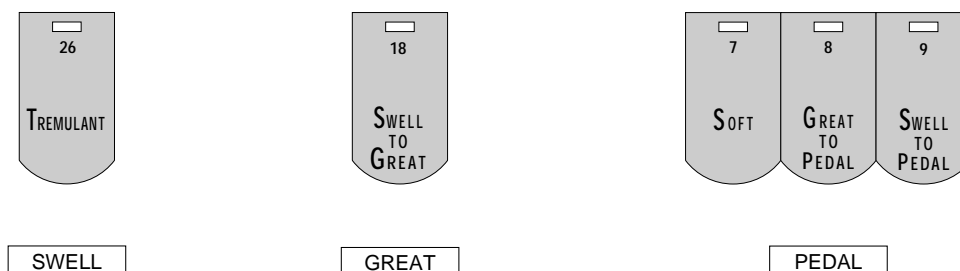
Ⓐ(キャンセル)ボタンを押すと、現在オンになっているすべての音色ストップ、効果ストップをキャンセル(オフ)することができます。

オルガンの音色づくりの基本であるプリンシパル系を含めた透明感のあるフルー管系の音色を始め、豊かで暖かみのあるリード管系の音色(音色名赤文字表記)そして華やかなミクスチャー系の音色が内蔵されています。



# 3. 効果ストップ

効果ストップ(茶色)は、音色ストップの右側にあり、鍵盤ごとに音色に変化を加えます。ソフトストップはペダル鍵盤に、トレミュラントストップはスウェル鍵盤にそれぞれ有効です。また、グレート鍵盤やペダル鍵盤に有効なカプラーストップも用意されています。



## SOFT(ソフト)

ペダル鍵盤の音量を、ほかの鍵盤よりやや小さめ(ソフト)にすることができます。ソフトストップの先を軽く押さえると、ストップのランプが赤色に点灯し、ソフトに設定されたことを示します。

## TREMULANT(トレミュラント)

トレミュラントストップをオンにすると、スウェル鍵盤の音量が周期的に変化し、音に独特の振動が加わります。

## カプラー

ある鍵盤で設定したすべての音色を、ほかの鍵盤でも演奏することができます。1つの鍵盤で2つの鍵盤の音を同時に鳴らすことができますので(カプラー機能)、音に厚みが加わり、音色の組み合わせもより一層多彩になります。

### GREAT TO PEDAL(グレートトゥーペダル)

このストップをオンにして、ペダル鍵盤を弾くと、ペダルに設定している音色に加えて、グレート鍵盤に設定している音色も鳴ります。

### SWELL TO PEDAL(スウェルトゥーペダル)

このストップをオンにして、ペダル鍵盤を弾くと、ペダルに設定している音色に加えて、スウェル鍵盤に設定している音色も鳴ります。

### SWELL TO GREAT(スウェルトゥーグレート)

このストップをオンにして、グレート鍵盤を弾くと、グレート鍵盤に設定している音色に加えて、スウェル鍵盤に設定している音色も鳴ります。

#### Note

カプラーを使用する時、スウェル鍵盤でトレミュラントの効果がかかっていれば、別の鍵盤に移された音色もその効果がかった状態になります。

#### Note

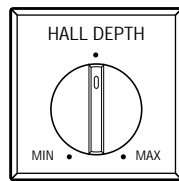
スウェルトゥーグレートとグレートトゥーペダルの両方がオンされていてもペダル鍵盤でスウェル鍵盤に設定している音色は鳴りません。

## 4. ホール効果(リバーブ)

音色に残響をつけ、立体的で奥行きのある演奏にします。

### HALL DEPTH(ホールデプス)

ホール効果(リバーブ)は、MAXで最も深く、MINで最も浅くなります。



## 5. 便利なコンビネーション

### コンビネーション(レジストレーションメモリー)

各鍵盤の音色ストップや効果ストップで設定したレジストレーション(組み合わせ)をあらかじめ設定しておけば、演奏中でも、ボタン一つで呼び出すことができます。

#### レジストレーションを記録する

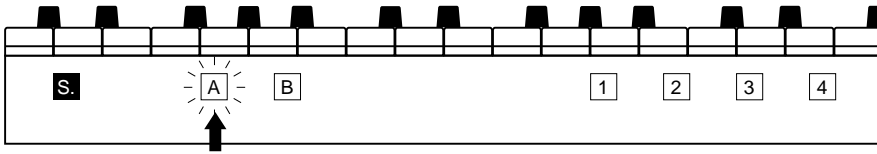
記録できるナンバーは1から10までで、10通りのレジストレーションを記録できます。  
また、グループBにはあらかじめレジストレーションが10種類プリセットされています。デモソングは、このグループBのレジストレーションを使用します(P10参照)。なお、グループBに新しいレジストレーションを記録することはできません。

1. 記録したいレジストレーションを設定します。
  - 必要な音色ストップや効果ストップを操作してください。
2. 記録するコンビネーション ボタンの組み合わせを決めます。(この場合、A-1[グループAのナンバー1]に記録する例を示します。)

#### Note

電源オン時には、グループ ボタンのAが点灯しています。ナンバー ボタンはすべてオフの状態になっています。

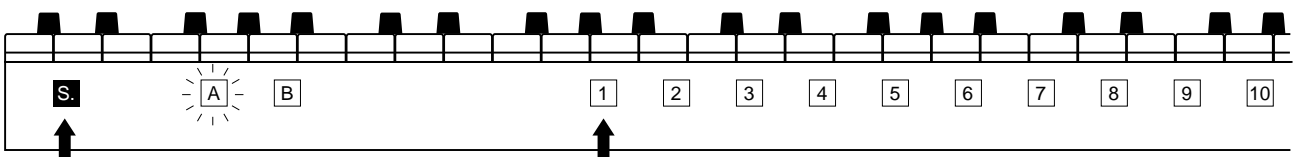
3. まず、グループを選択します。グループAボタンを押してください。  
Aボタンが点滅を始めます。  
(この時点では、まだレジストレーションは記録されていません)



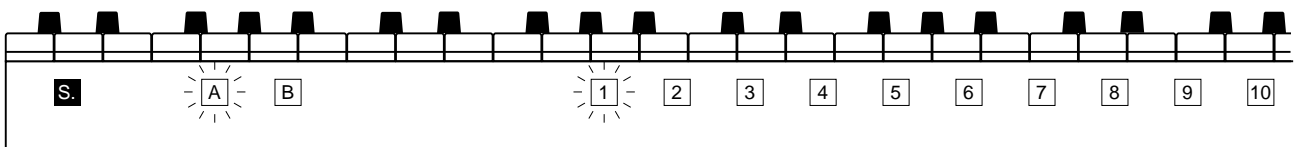
#### Note

グループAボタンが点滅を開始した後、次の動作をしないで5秒間経過した場合、直前に選択されていたコンビネーションボタンのレジストレーションに戻ります。

4. グレート鍵盤下の左隅にある〔SET ; セット〕ボタンを押しながら、記録したい番号のナンバーボタン(この場合、ナンバー1)を押します。



5. グループボタンとナンバーボタン(この場合、A-1)が点灯し、レジストレーションが記録されたことを示します。(1ボタンを押した時、1ボタンが一瞬点滅し、レジストレーションが記録されていることを示します。Aボタンは点灯したままです。)



### レジストレーションを呼び出す

呼び出したいレジストレーションが記録されているコンビネーションボタンの組み合わせ(たとえば、A-1)を押します。これで、そのコンビネーションボタンのレジストレーションが設定されました。

#### Note

グループBボタンとナンバーボタンで10種類のプリセットコンビネーションを呼び出して使用することもできます。

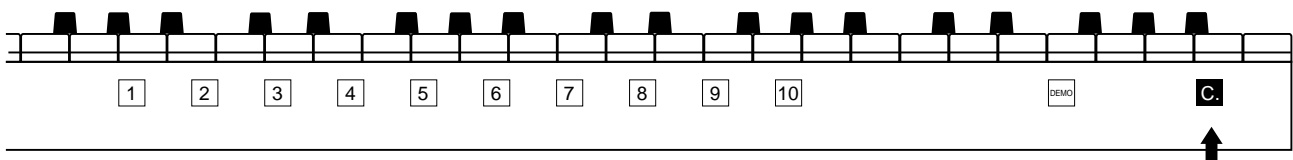
#### Note

コンビネーションボタンに記録したレジストレーションは、電源OFF後、約1週間バックアップされます。

## キャンセル( C. ; CANCEL )

〔キャンセル〕ボタンを押すと、オンになっているすべての音色ストップ、効果ストップのランプが消え、オフになります。

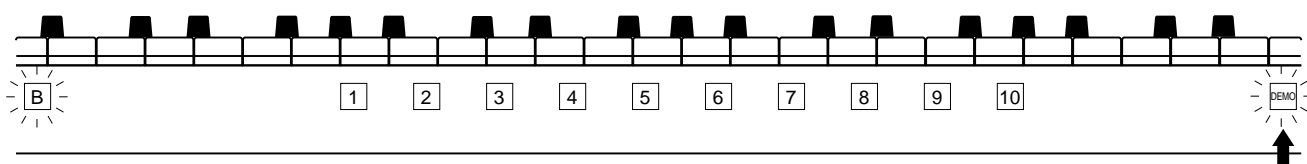
レジストレーションを最初から設定する場合は、このボタンを使うと便利です。



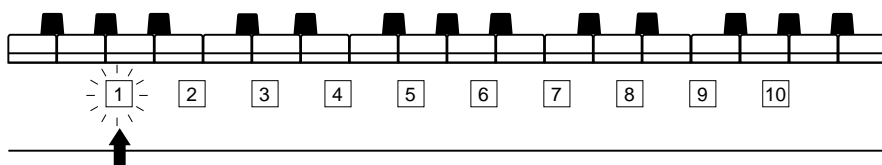
# 6. デモソングの再生

F-100にはあらかじめ10曲のデモソングがプリセットされています。これらのデモソングはいつでも好きなときに再生してお楽しみいただけます。

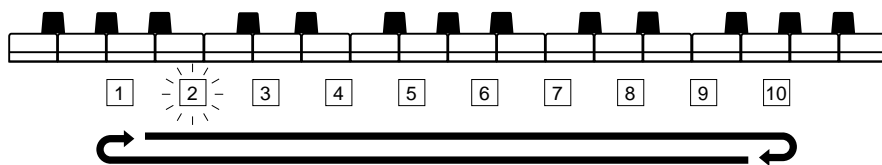
1. (X) デモ ボタンを押します。デモ ボタンとコンビネーショングループ ボタンBが点灯して、ナンバー ボタン 1~0が順に点滅します。



2. コンビネーション ナンバー ボタン 1~0の中から聞きたいデモソングに対応したボタンを押します。(下記デモソング一覧参照) 押したボタンのランプが点灯し、デモソングの演奏が始まります。



デモソングの演奏が終わると、つぎの番号のボタンが点灯し、そのボタンに対応したデモソングの演奏が始まります。また、10番目のボタンに対応したデモソングの演奏が終わると、1番目のボタンに対応したデモソングの演奏が始まります。  
デモソングの演奏はストップするまで繰り返されます。



### Note

デモソングの演奏中に別の番号のボタンを押すと、その番号のボタンに対応したデモソングの演奏が始まります。

### Note

デモソングの演奏中に各鍵盤を弾いたり、音色を変えたり、トランスポザー、ホールデプス、ピッチコントロール、マスターボリュームを使用することもできます。ただし、(X)セット) ボタンやグループボタン、スウェルペダルは使用できません。

### Note

デモソングの演奏中はMIDIの送受信は行なえません。

## デモソング一覧

1. 讃美歌353	6. 結婚行進曲	F. メンデルスゾーン
2. 讃美歌312	7. 主よ、人の望みの喜びよ	J.S. バッハ
3. 讃美歌352	8. トランペット ボランタリー	J. クラーク
4. 讃美歌539	9. プレリユード	J.S. バッハ
5. 結婚行進曲	R. ワーグナー	10. フーガ
		J.S. バッハ

3. もう一度デモ ボタンを押すか、(X) キャンセル) ボタンを押すと、デモソングの演奏は停止し通常の状態に戻ります。

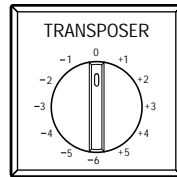
### Note

通常の状態に戻ったとき、パネルの状態はデモソング演奏時の状態のままになります。

# 7. その他

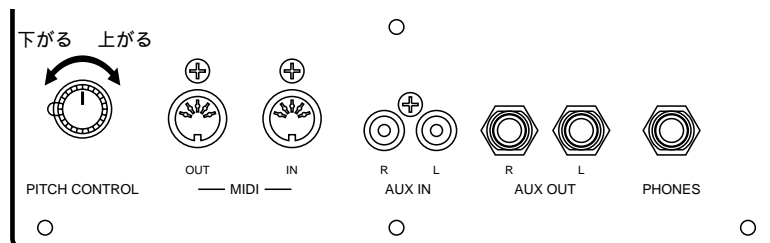
## トランスポーザー( TRANSPOSER )

パネル左側にあるTRANSPOSER(トランスポーザー)を使うと、半音ずつ移調することができます。  
設定範囲: -6 ~ +5



## ピッチ コントロール( PITCH CONTROL )

鍵盤下部にあるPITCH CONTROL(ピッチ コントロール)つまみを回すことで、音程を細かく調整することができます。中央が標準ピッチ( A3=440Hz )です。  
設定範囲: 432Hz ~ 448Hz



# 8. MIDIについて

F-100には、MIDI IN / OUT端子が付いています。外部のMIDI対応楽器 / 機器と接続することにより、F-100の世界を広げることができます。

オプションのヤマハミュージックディスクレコーダーMDR-4を接続することで、演奏を録音 / 再生することができます。つまり、F-100で演奏した大切なデータをフロッピーディスクに保存したり、また、好きな時にそのデータを使って再生することができるわけです。

## 送 / 受信できる主なデータ

### 鍵盤のオン / オフデータ ( ノートオン / オフ )

スウェル鍵盤：1チャンネルで送/受信  
グレート鍵盤：2チャンネルで送/受信  
ペダル鍵盤：3チャンネルで送/受信

### ストップのオン / オフデータ ( プログラムチェンジ )

スウェル鍵盤のストップ：1チャンネルで送/受信  
グレート鍵盤のストップ：2チャンネルで送/受信  
ペダル鍵盤のストップ：3チャンネルで送/受信

### スイッチ類の切り替えデータ ( プログラムチェンジ )

コンビネーションの切り替え：16チャンネルで送/受信

### ペダル類のデータ ( コントロールチェンジ )

スウェルペダルデータ：16チャンネルで送/受信

### バルクデータ ( エクスクルーシブメッセージ )

パネル設定：チャンネルに関係無く送/受信  
レジストレーションの記録内容：チャンネルに関係無く送/受信

## システム エクスクルーシブ メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0, 43, 70, 70, 10, F7	全RAMデータ送信要求	×	
F0, 43, 70, 70, 70, 01, F7	MDRプレイスタート	×	
F0, 43, 70, 70, 70, 02, F7	MDRプレイストップ	×	
F0, 43, 70, 70, 70, 03, F7	MDRレコードスタート	×	
F0, 43, 70, 37, 00, ...( data )..., F7	バルクダンプデータ		
F0, 43, 70, 37, 42, ...( data )..., F7	パネルダンプデータ		

## ヤマハミュージックディスクレコーダーMDR-4について

F-100で演奏した大切なデータは、MDR-4で保存することをおすすめします。2本のMIDIケーブルで、F-100とMDR-4を接続して使用します。詳しくはMDR-4の取扱説明書をお読みください。

### MDR-4でできること

- 演奏の録音 / パート別録音
- 演奏の再生 / パート別再生
- リピート ( 繰返し ) 再生
- 再生テンポの変更
- 曲のコピー / 削除
- レジストレーション ( バルクデータ ) の記録
- レジストレーション ( バルクデータ ) の呼び出し
- パネル設定の記録
- パネル設定の呼び出し

# MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1, 2, 3, 16 ×	1, 2, 3, 16 ×	*1
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー	音域	36 - 96, 36 - 67 *****	36-96, 36-67 36-96, 36-67	*2 *2
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	9nH, v=1 - 127 8nH, v=0 - 127	9nH, v=1-127 9nH, v=0 8nH, v=0-127	*3 *3, *4
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	16 81			スウェルペダル キャンセル
プログラムチェンジ	設定可能範囲	0-3, 6-13, 16, 17, 38, 39 2-17, 34, 35 0-9, 14, 15, 24, 25, 28, 29, 32, 33 32, 33, 48-57 *****	0-3, 6-13, 16, 17, 38, 39 2-17, 34, 35 0-9, 14, 15, 24, 25, 28, 29, 32, 33 32, 33, 48-57 *****	スウェル グレート ペダル コントロール
エクスクルーシブ				
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカル オン/オフ オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × × ×	×   ×	*5

\*1 1ch : スウェル, 2ch : グレート, 3ch : ペダル, 16ch : コントロール

\*2 36-96 : スウェル, グレート, 36-67 : ペダル

\*3 ペダルのベロシティは受信のみ

\*4 9nH, v=0の時, キーオフベロシティは64として処理

\*5 ベーシック チャンネルとコントロール チャンネルで受信

モード1 : オムニオン, ポリ

モード2 : オムニオン, モノ

モード3 : オムニオフ, ポリ

モード4 : オムニオフ, モノ

: あり

× : なし

## 故障だとお考えになる前に

以下のような現象は、故障ではありませんので、ご注意ください。  
F-100の症状をよく確かめて、理解を深めていただきますようお願いいたします。

現象	原因と処置
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具をオン/オフしたり、電気ドリルや故障したネオンサインなどを使用している場合は、雑音が入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントをお使いください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点までご相談ください。
テレビやラジオなどに雑音が入る。	ごく近くにラジオやテレビが置いてあると、雑音が入る場合があります。できるかぎり離してお使いください。
周囲の物が共鳴してびりつく。	F-100の音は持続音であるため、周囲の窓ガラスや戸棚などの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
スピーカー(内蔵)から音が出ない。	ヘッドフォンが接続されていないか確認してください。 ヘッドフォンが接続されていると、スピーカーの音は自動的に出なくなります。
外部スピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続コードケーブルの接続をご確認ください。</li> <li>接続しているアンプ/スピーカーの電源がオンになっているかどうかをご確認ください。</li> </ul>
音が小さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスターボリューム、スウェルペダルのセット位置をご確認ください。</li> <li>接続しているアンプ/スピーカーのボリュームをご確認ください。</li> </ul>
パネルでセットしているストップとは異なる音が出る。	ペダルまたはグレートで、カプラーのストップがオンになっています。カプラーのストップがオンになっていると、別の鍵盤で設定しているストップの音が同時に発音します。



# 仕様

	F-100
鍵盤	スウェル : 61鍵 C1 ~ C6 最大同時発音数 : 11
	グレート : 61鍵 C1 ~ C6 最大同時発音数 : 11
	ペダル : 32鍵 C1 ~ G3 最大同時発音数 : 4( 平行型または扇型 )
ストップ	スウェル : 音栓 7( ブルドン8', ガンバ8', プリンシパル4', フリュート トラベルシェール4', フラジヨレット2', ラリゴ1-1/3', オーボア8' )
	グレート : 音栓 8( プリンシパル8', ロールフレーテ8', オクターブ4', コッペルフレーテ4', ナザール2-2/3', スーパーオクターブ2', ティエルス1-3/5', ミクスチャー4f )
	ペダル : 音栓 6( プリンシパル16', スズバス16', オクターブ8', シュピッツフレーテ8', コラルバス4', トランペット8' )
カブラー	グレート : スウェルトゥー グレート ペダル : スウェルトゥー ペダル, グレート トゥー ペダル
コンビネーション	ゼネラル10, プリセット10, キャンセル
効果	スウェルペダル, マスターボリューム, ホール効果, トランスポージャー, ピッチコントロール, トレミュラント( スウェル鍵盤 ) ソフト( ペダル鍵盤 ) デモ ソング10
入出力端子	AUX OUT (PHONE; L/R), AUX IN (RCA; L/R), PHONES (STEREO), MIDI (IN/OUT)
その他	譜面板, ペダル照明ライト, スライド蓋( 鍵付 )
アンプ / スピーカー	60W × 4 / コーン型 : 20cm × 2, ドーム型 : 2.5cm × 2
外装	オーク調
AC入力	定格電圧 : 100V, 定格消費電力 : 160W, 定格電源周波数 : 50 / 60Hz
寸法	本 体 : 間口 145.4cm, 奥行 68.5cm, 高さ 112.3cm 114.7cm( 扇型ペダル含む ) 108.8cm( 平行型ペダル含む )
	椅 子 : 間口 142cm, 奥行 35.5cm, 高さ 63.5cm
重量	本 体 : 110kg ペダル : 44kg( 平行型 ), 45kg( 扇型 ) 椅 子 : 26kg
付属品	取扱説明書, 保証書, 鍵 ( 2 )

\*仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。

# ■ 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

## 保証書

このオルガンには保証書がついています。  
保証書は納入調整サービスの際に所定事項を記入して発行いたしますので、内容をご確認のうえ、大切に保管してください。

## 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

## 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 消耗部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、  
接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

## 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

## 修理のご依頼

まず本書の「故障だとお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

## 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスセンター	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスセンター	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL (044) 434-3100
東京サービスステーション*	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL (03) 5488-6625
(* お持込み修理のみお取扱い)			
浜松サービスセンター	〒435-0048	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL (06) 877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL (0878) 22-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL (082) 874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092) 472-2134
[ 本社 ]			
カスタマーサービス部	〒435-0048	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL (053) 465-1158

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

# ヤマハ株式会社

---

北海道支店 地区営業課	〒064-0810 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター TEL 011( 512 )1550
仙台支店 地区営業課	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル TEL 022( 222 )6144
東京支店 エレクトーン普及グループ	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL 03( 5488 )6463
関東支店 営業推進課	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL 03( 5488 )1680
名古屋支店 営業推進課	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 TEL 052( 201 )6140
大阪支店 営業推進グループ	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋プラザビル東館 TEL 06( 252 )2390
広島支店 地区営業課	〒730-0031 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL 082( 244 )3748
九州支店 営業推進課	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL 092( 472 )2153
国内楽器営業本部 オルガン推進プロジェクト	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL 03( 5488 )6692

\* 住所および電話番号は変更になる場合があります。

---

**YAMAHA**  
ヤマハ株式会社